



3:14 私は、近いうちにあなたのところに行きたいと思いながらも、この手紙を書いていきます。

3:15 それは、たとい私がおそくなればあいでも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。

3:16 確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現われ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」

4:1 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。

4:2 それは、うそつきどもの偽善によるものです。彼らは良心が麻痺しており、

4:3 結婚することを禁じたり、食物を断つことを命じたりします。しかし食物は、信仰があり、真理を知っている人が感謝して受けるようにと、神が造られた物です。

4:4 神が造られた物はみな良い物で、感謝して受けるとき、捨てるべき物は何一つありません。

4:5 神のことばと祈りによって、聖められるからです。

パウロは「神の家（教会）でどのように行動すべきか」を書き送りました。もちろんこの世での行動も大切ですが、神との接点である教会は第一に大切なものです。永遠の救いと真理がそこにあるからです。

ですから教会から離れる人は、神様から離れるといっても過言ではないでしょう。もちろん神様の愛の手は伸べられていますが、それを素通りしてしまう生き方と言えます。

また教会では教えられている内容が非常に重要で、救いの教理も大切です。救われた者の実生活についても大切です。ここでは「結婚を禁じたり」「食物を断つことを命じたり」と、その間違った例が記されています。

神の家である教会に集い続け、神様の福音の真理に生きて、「真理の柱また土台」を築き上げて行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

